

創立50周年記念誌

HIROSE 50th Anniversary Memorial Book



株式会社 廣瀬

お・やおやはうす



尼崎市中央卸売市場のせり風景 画：廣瀬伸幸（廣瀬伸一社長の長男）

株式会社 廣瀬

50周年をむかえて

一人ひとりの”いのちの花”がいつも満開に咲き続ける会社を目指して



Shinichi Hirose
代表取締役社長 廣瀬伸一

昭和28年11月、尼崎市中央市場開設と同時に㈱廣瀬も産声をあげました。

それから早50年、多くの人に見守られ、育まれ、支えられての今があります。振り返ってみれば、時にはきついお叱りの言葉も頂戴しました。しかしお蔭様で、今ではそのすべてが㈱廣瀬の血肉になっていると、過去多くのご縁のあった方々や様々な出来事に本当に感謝しております。

また㈱廣瀬の歴史を振り返った時、母(専務)の存在を抜きにしては語れません。昭和38年先代(父)に嫁いで以来、家事と子育て、そして市場での仕事、当時は今のようにコンピューターなどないわけですから、帳面や伝票などはすべて手書きで、大変な作業を専務はこなしていました。そんな中祖父が倒れ、寝たきりとなり、その看病のために日々夜遅く母に手を引かれて病院へ通った事は今でもはっきり覚えています。



そんな母の生き様を目の当たりにして、私は育っていきました。ちょうど私が高校生の頃、父の病気が悪化し、入退院を繰り返します。そして父の死。「もう店を続けるには限界がある。店を閉めよう」と家族会議が開かれました。当時私は東京の大学に進学し、教員の免許を取って高校の先生になろうと将来を決めていました。しかし、店を閉めると全く収入がなくなってしまうわけですから、それどころではありません。

私は悩んだあげく、高校三年生の夏㈱廣瀬へ就職すると決めました。今から考えれば、母の直向きさと家族のために頑張っている姿に対して、「なんとか恩返しをしたい！」と心の中で強く思っていたように思います。母が女手一つで支え守ってきた㈱廣瀬をつぶしたくなかったのです。

しかし現実には甘くはありませんでした。私たち一家はどん底を味わいながら、支え合い、歯を食いしばりながら父のモットーであった「素直で正直」な商売を続けていきました。お蔭様で今となっては、当時の「どん底」があったからこそ㈱廣瀬は決して立ち止まる事なく、ここまで来れたのだと感じております。

「どん底」での頑張りが、㈱廣瀬の基礎を作っていたわけです。

そして今から7年前、中田先生との運命的な出会いがあります。この方と出会っていなければ、私自身もこの㈱廣瀬という会社も、仕事を義務としてただがむしゃらに頑張るだけで、従業員も決して「生きがい」や「仕事に対する喜び」はとても持てなかったことでしょう。

中田先生はお寺の住職であり、保育園の園長先生であり、(有)中田企画オフィスの代表という極めてユニークな方です。そんな先生から「人生とは何か」「生きるとは何か」「会社とは何のために存在しているのか」、そして「21世紀マーケティング論」「人や会社を喜ばし儲かる実践的企画について」「時流適応について」「マーチャンダイジングについて」等々、とにかく知らなかったことを一杯学びました。私は大学に行けない悔しさもあったのかもかもしれませんが、とにかく学びたい一心でした。また私の妻も母もそうでした。

今まで仕事だけを頑張ってきた私たち家族は、自分たちの枠をはるかに越え、多くの智慧や人間としての生き方、そして「実践的経営手法」や「生きがいのあるチームワ



ークづくり)を与えて下さる中田先生のお話を聞くことを目的に、暇さえあれば中田先生のお寺がある広島を訪れました。そしてそこで私たちと同じように先生を慕って全国から集まってくる多くの企業や商店の経営者の人たちと、一生の友としてのお付き合いが始まり、本物を目指す経営者の人たちの生き様に触れることは私の人生の宝物になりました。

先生は過去、縁があつて気が向いた色々な業種の企業や商店の「生まれ変わり」を実行されてきましたが、やっと昨年㈱廣瀬に気を向けていただき「廣瀬もそろそろ次のステージに上がらんといけんなあ〜。このままじゃあ、従業員もあんたもワクワク感や、仕事に対する喜びはないじゃろう……。まあ、ちょっとやろか」(私はこの時を待ち望んでいたのですが)の言葉から、㈱廣瀬は先生の言われる通りの経過を経て新生㈱廣瀬として生まれ変わることができ、今年3月には前年度比150パーセントを達成させました。そして現在も全員がチャレンジャーとなって新たな目標に挑戦し続けていま

す。われ、信頼の“花”を咲かせてくれています。

「どん底」を通し㈱廣瀬という樹木の根っこが養われ、家族と社員の頑張りによって樹木の幹が育ち、中田先生の援助とご指導によって、やっと㈱廣瀬という樹木は素晴らしい“潤いの花”を咲かせることができました。

現在母(専務)は中田先生のご紹介で、京都岡崎にある“おばん菜とおそば”の「だる満」というお店で、自分の特技を生かし、㈱廣瀬から派遣された“ベジタブル・フードアドバイザー”として第二の生きがいある人生の“花”を楽しく咲かせています。

私の妻である智子も、昨年より㈱廣瀬のマネージャーとして私の片腕となり、マネージャーとしての“花”を生き生きと咲かせてくれています。

そして弟の常務も一年前はあれほど短気だったのに、会社が変わっていくと共に穏やかになり、今ではアレンジメントスタッフのみんなから「私の常務」として慕

また今回「㈱廣瀬50周年を迎えて」の従業員の皆さんの文章を読み、一人ひとりの”いのちの花”がとてもきれいに咲いていることが実に嬉しく、やっと私が目指していた会社が形となって“花”を咲かせてくれたと、心から感動しました。

いくら“花”を咲かせても、突風に吹かれてあつてなく散ってしまったのでは意味がありません。㈱廣瀬はこの50年間に実に多くの方々から頂いた「お陰」と「ご恩」に報いる為にも、これからも進化・発展し、益々満開の花を咲かせ続けていくことが私たちの使命と受け止めております。

今後は今まで以上に、社内一丸となって“それぞれの花がいつも満開に咲き続ける本物の会社”を目指して精進してまいります。皆様には今後とも尚一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

がむしゃらに50年 そして素晴らしき50年



Yoshiko Hirose
専務取締役 廣瀬好子

波乱万丈の人生を越え、ベジタブル・フードアドバイザーとして第二の人生。
そして、成長した三人の息子の孫達と共に感謝の日々を過ごしております。



京都「だる満」でおばん菜づくり。
「なつかしいおふくろの味」「新感覚の野菜料理ですね」
といったお客様の声も多い。

昭和38年5月25日に私は亡き主人と結婚しました。

私は農家に生まれ、商売にはまったく知識も無い娘でした。そんな私が縁あって廣瀬家に嫁いでくることになり、初めて尼崎の土地を踏んだ時には右も左も分からず、これからどうしようと戸惑いながらとても心細く、古里を思い出しては涙で明け暮れる日々が続いたことが今になってはとても懐かしく思えます。

その後まったく商売のことが分からない私は、義理の父や主人に支えられて、商売の「い、ろ、は」を学んでいきました。そのうち、三人の子宝に恵まれ日々忙しく仕事に明け暮れていましたが、ちょうど三男が生まれて40日目に主人が交通事故に遭いました。突然の事に私の目の前は真っ暗になって途方に暮れた日々でしたが、幸いにも商売の方は義理の父と主人の弟の協力によってなんとか切り抜けることができました。

しかし昭和50年11月に義理の父は65歳で他界。主人は交通事故の後遺症から体の調子が回復せず入退院を繰り返し、当時の私はなんとかお店を続けるためにも小さな子どもたちを連れ、なりふりかまわず、ただただがむしゃらに働き続けました。

ただ仕事だけに明け暮れていましたが、気がついた時には子どもたちも大きくなり、「これからは少し主人にも楽を…」と思った矢先の昭和62年2月、主人は私たちを残して他界していきました。享年49歳というあまりにも早い主人の死でした。

それからというもの長男と三男と共に一からの出発で、店主であり主人という大黒柱を失った苦しい商売の始まりでした。そんな時私は勝気にも、「周りのお客様への感謝」「ありがとうという感謝の言葉をいつも忘れてはならない」と、子どもたちには口癖のように厳しく伝えていきました。

苦しい時代もありましたが、子どもたちの頑張りによってお客様にも恵まれ、

そしてお客様に助けられ、支えられながら廣瀬商店は平成2年3月1日に、(株)廣瀬としてスタートを切りました。

そして平成9年、長男である社長とお寺の住職である中田先生とのご縁があり、廣瀬家のお墓と会社の供養塔を広島市長松寺境内に建立させていただきました。この長松寺には中田先生を慕って全国から経営者の人たちが沢山集まって来られており、私にとっても素晴らしい出会いとご縁が一杯ありました。

企画会社の代表でもある中田先生のご縁で、現在私は(株)廣瀬の派遣ベジタブル・フードアドバイザーとして、京都岡崎の老舗「だる満」というお店で「おばん菜づくり」の指導をさせていただいております。またつい最近までは、東京の「ベジタブル&フルーツマイスター」という野菜のソムリエ教室に通い、貪欲に野菜の知識を吸収しながらも、自分の特技を生かすことの出来る充実した「第二の人生」を送らせていただいております。

現在長男は社長として中田先生や、情報アナリストである鈴木先生のお力を借りながら、なお一層(株)廣瀬を発展させてくれております。また嫁の智子もマネージャーとして社長を支え、三男も常務として(株)廣瀬の発展のために尽力してくれております。そして次男はサントリー株式会社スーパーバイザー(フード担当)で活躍してくれており、全員子宝にも恵まれて今は男の子4人、女の子3人、計7人の孫に囲まれて嬉しくて楽しい日々を過ごさせていただき、本当に私は幸せ者だと喜んでおります。

昭和28年の創立から色々なことがありながらも(株)廣瀬は50周年を迎えることができる今、様々な人たちに支えられ、助けていただきこの素晴らしい節目の年を迎えることができたことは、誠に感謝にたえません。謹んで御礼申し上げますと共に、今後とも(株)廣瀬を何卒宜しくお願い申し上げます。

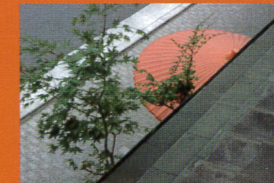


PHOTO:だる満点景

亡き父を偲ぶ

Yasuhisa Hirose
常務取締役 廣瀬泰久



義理・人情が厚い亡き父の言葉が
今の私の心の支えとなった。
「男は仕事を一生懸命やって、
そして家庭を持ってから一人前になっていくんや」と…。

㈱廣瀬が50周年を迎えることになり、役員一同心からおめでとうの気持ちで一杯です。

また今現在(株)廣瀬で共に働いている皆さんとは、一つの大きな節目を一緒に過ごさせてもらい、これも何かのご縁と思い、私は喜びと感謝で溢れるほどです。

私は中学卒業と同時に(株)廣瀬に入りました。一応定時制高校に入学し、勉強と仕事の両立を夢に抱き青春時代を過ごした覚えがあります。それから考えてみると現在20年余りの時間が過ぎようとしています。

当時の私を思い出すと、とにかく血の気が多くてすぐに「怒る」、まるで瞬間湯沸かし器を人間にしたようでした。私が店に入った当初は売上も市場内で下から数えた方が早く、周りの人たちから「この商店、先は短い～」と口うるさく言われました。それから一年が経ち、兄が店に入り、母親の専務と兄と私の三人で力を合わせて頑張っていこう、失敗したら潔く商売を辞めようと心に決め、(株)廣瀬は再スタートを切りました。

最初はお客様も店に近づかない状況の中、商品を持って行っては「買って下さい…」という状態でした。私自身を振り返ってみると、そんな逆境の中で「誰にも負けない」というハングリー精神が養われていったように思えます。またその養われたハングリーな心は、今でも誰にも負けないと思っています。

過去を振り返ってみれば色々な

思い出がありますが、先代なくして現在の(株)廣瀬は在りません。ここで先代社長(私の父)の事を偲んで、私の心に残る思い出を少しばかり綴らせていただきます。

私の父は昔ながらの義理・人情がとても厚い人でした。人が良く、騙すより騙される、それでも騙された自分が悪かったと思っている人



この父の笑顔が、今も私の励みになっています。また商品を買ったお金を回収できない時も、利息なしで余裕が出来たらいつかは返してくれるだろうと、相手のことを信じていました。今と昔のお金の価値は違いますが、当時大変な金額だったと私は小さいながらに耳にした覚えがあります。

そんな義理・人情の厚い父でしたが、凄いい取り柄がありました。それは記憶力の凄さです。病気で次第

に目が衰え、字が見えなくなった状態の時に私は中学を卒業して店に入り、よく伝票の値段とか前日の請求書などを父の横に並んで報告したものです。記憶力が凄く、今まで私の知っている人の中で一番だと誇りに思っております。

またそんな父のことを思い出すと、小さなころよく連れていってもらったゴルフの練習があります。小学生ながら打ちっぱなしを父と共によくやったことを覚えています。(親子共々なかなかの腕でしたよ)

中学生の時、試験の前日に一夜漬で勉強していると父に「そんなことせんでもええんや、学校で先生の話聞いてけば、全て解んのや」とよく言われたものです。また、「男は仕事を一生懸命やって、そして家庭を持ってから一人前になっていくんや」ともよく言っていました。そんな父の一つひとつの言葉を肝に命じ、そして父の言葉を支えとして今日の私が存在しています。

父は私が19歳の時に亡くなってしまいました。あまりにも早すぎる死であり別れでした。そんな私の体験を通して、周りの人たちには「親が元気で生きているなら、何か一つでも親を安心させてあげて下さい。親孝行してあげて下さい」という私なりの切なる願いがあります。

50周年を迎えた今、亡き父を偲び感謝すると共に気持ちを新たに、お客様との接点を大切に育んでいけるよう、より一層(株)廣瀬を盛り上げていきたいと思っています。



義理・人情の厚かった父の若い頃



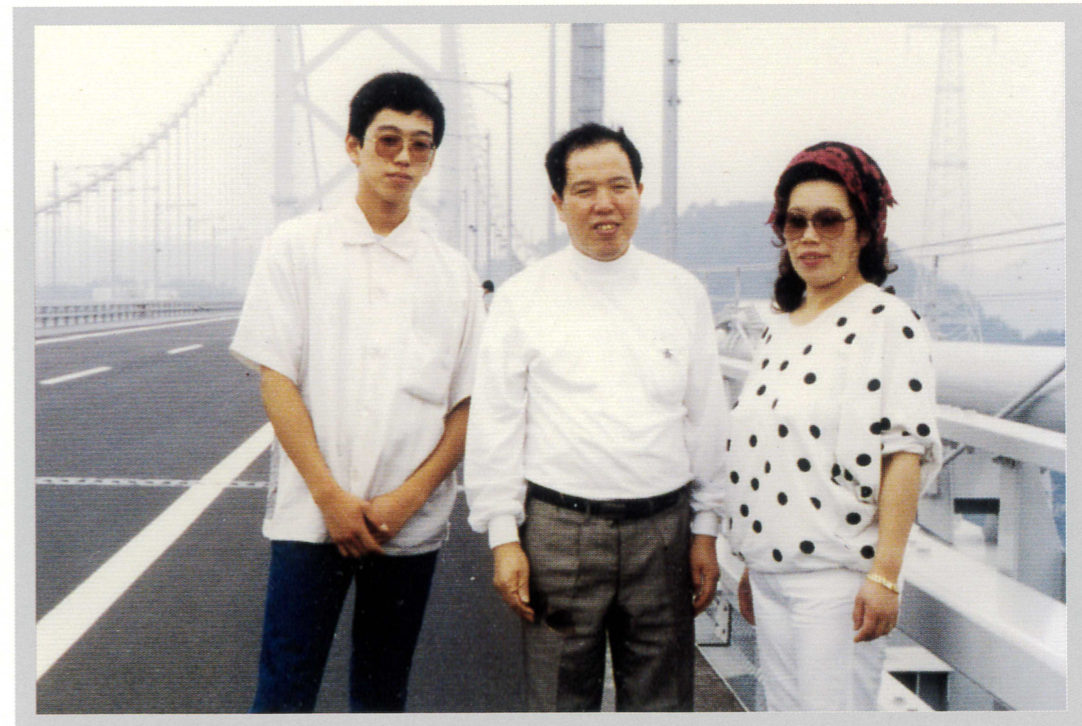
父と母の新婚時代



兄と二人で(左が私)。実は私のほうが背が高くなりました



懐かしい「廣瀬商店」時代のトラック



父よりも背が高くなったけど、父の頑丈な背中を見ていつも働いていました

株式会社廣瀬 創立50周年によせて

宗教法人 龍城山長松寺住職
社会福祉法人 龍城福祉会志和龍城保育園理事長兼園長
(有)中田企画オフィス 代表取締役
～21世紀型経営者の会～「凡夫の会」代表

Terumichi Nakata
中田輝道



大きな尊いご縁に導かれ、 ありがとう(幸せ)の輪が広がる



長松寺本堂 内陣

（株）廣瀬創立50周年心よりお慶び申し上げます。

中国の古典に「人間万事塞翁が馬」という格言が出てきます。

この格言の意味は、ある砦に住む老人の馬が逃げ出し、老人はひどく悲しむわけですが、しばらくするとその馬が、たくさんの馬を連れて戻ってきました。老人は喜んだものの、今度はその馬に乗った息子が落馬をし、足が不自由になってしまいました。ところがそのお陰で息子は兵役をまぬがれます。

この故事は、人間の運・不運は変

転して定まりがないのだから、幸せだからといって有頂天にならず、不幸だからといって悲嘆に暮れてはいけないということを私たちに教えてくれているわけです。

（株）廣瀬の50年もまさしく「人間万事塞翁が馬」の歴史の上に成り立っているの現在があると思いますし、本当に目に見えない大きな尊い“ご縁”に導かれて今日があるのだと思います。これは（株）廣瀬に限らず人間であつたら私を含めて誰しもそうですね。ただその“ご縁”を喜べるか、それらの“ご縁”に心から感謝できるかとな

ると、なかなか難しい。

うまくいっている時は「ありがたい」と思いますが、うまくいかなくなったら途端に「なんや」と心がコロコロ変わってしまうのが人間ですね。だからこそ、日ごろから良い心の癖をつけなくちゃいけないわけです。

私はよく皆さんに「感謝の気持ちが湧かなくてもええから、とにかくありがとう、ありがとう、ありがとうと毎日お題目みたいに言うてごらん。嬉しい時も、腹が立つ時も、悲しい時も、とにかくありがとうと言いつづけてごらん。きっと幸せの扉が大きく開いてラッキ

ーなことが一杯起こってくるから…」とお話しています。

不思議なことにこの「ありがとう」を口に出して繰り返して言い続けていると、楽しいこと、ラッキーなこと、ツイてることが一杯起こってくるんです。そして何より自分がどんどん好きになっていき、結果的には相手を“認め”たり“ねぎらう”気持ちが湧いてきます。

「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と繰り返してとにかく言い続ける。これにはお金もいらなし、誰でも、いつでも、どこでも、どんな時でもでき

ることなんです、このことを知っている人も、楽しんで行っている人もあまりにも少ないです。この「ありがとう」という言葉は実に多くの幸せをもたらしてくれる最高の宝物なんですけどね。

（株）廣瀬のメンバーも社長を筆頭にこの「ありがとう運動」に一年前から取り組んでくれています。そして月を追うごとに（株）廣瀬は躍動のある明るい会社へと生まれ変わっていききました。凄いですね～“言魂”の力“ありがとう”の力とは。

どうでしょうか、皆さんも今日から

「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と感謝の気持ちが湧かなくても結構ですから、ただ「ありがとう」と数を言い続けてみる。そしてそのことを続けていったら、きっと（株）廣瀬のスタッフのように結果的に感謝の心が育まれ、“ねぎらい”と“元気”が自分の中から湧いてくると思いますよ。

最後になりましたが（株）廣瀬という発信基地から、「ありがとうの輪（幸せの輪）」が無限に広がっていくことを心より楽しみにしております。

合 掌



長松寺境内にある（株）廣瀬供養塔と廣瀬家の墓碑

感謝と喜びの道で、 さらなる成長に向かって

鈴木会計事務所所長
アクソン情報分析センター所長 情報アナリスト **鈴木三雄**

Mitsuo Suzuki



㈱廣瀬創立50周年まことにおめでとうございます。

廣瀬伸一社長と私のお付き合いは、かれこれ7年になります。そして、この7年の間で廣瀬伸一社長は、一回りも二回りも大きく成長されていかれたと実に嬉しく感じさせていただいております。

彼が私と出会ってこの7年間、一貫して変わらないことがあります。それは「夢」と「希望」を常に持ちつづけて生きている姿と、「世の中のためが一番で、それからお客様や従業員、サプライヤーなどのご縁のある方々のために仕事をするのがその次で、三番目に多少余裕があれば自分のことを考える」という姿勢です。

現在私は月に一度、中田先生のご指示のもとに、㈱廣瀬の「ありがとう研修会」に伺っておりますが、回を重ねるたびに㈱廣瀬の幹部や全スタッフのモチベーションや愛社精神がより高まり、人間性も人間力(戦力)も段階的にレベルアップしてきていることがとても実感できます。

さて、皆様は新聞やニュースでご存知でしょうが、昨年「雪印食品」「スターゼン」「全農チキンフーズ」など、一連の食肉偽造問題が世の中に発覚いたしました。そして、これらのすべての不祥事は「内部告発」によって発覚したものです。

ではなぜ、最近になって急に内部告発の件数が圧倒的に増えてきたのでしょうか。これは企業に勤める従業員の意識が大きく変わってきたか

らです。

従来の日本型経営システム、すなわち終身雇用制や年功序列型賃金制度が主流であれば、内部告発という行為は自らの首を絞めることとなりますが、このような内部告発が増えている背景には、雇用環境の変化による従業員や下請けの人たちの意識変化にとどまらない大きな時代の変化があります。

私は講演会や勉強会などで、経営者の皆さんに繰り返し繰り返し「近い将来、資本主義は間違いなく崩壊する」と言ってきました。その理由は、資本主義が「自然の摂理」に反し、人間のエゴとエゴ的自由を大事にして発達してきたものだからです。エゴというのは「自我」「私」が「自己中心」のことで、

資本主義社会で最も大事なのは「自分」と「お金」、生きる目的は「所有欲、金銭欲、名誉欲、権力欲、快楽欲などあらゆる欲望の追求」。そしてその達成のためには何をしてもいいという考え方です。

それでは、これから日本は、経営者はどのようにしてこの危機を乗り越えたいのか。実に簡単なことです。「自然の摂理」を中心として、人も企業も生きていけば必ず輝き、繁栄していきます。

それは常に「大きな夢」と「大きな希望」を持ち、①決めた約束は守り②自分から自主的にやり③プラス発想ぐせをつけ④物心共に与え好きになり⑤学びぐせをつけ⑥単純に良いと

思ったことはすぐやり、悪いと思ったことはやめる、そして人や会社の欠点を是正するのではなく、長所や伸びている部分をどんどん伸ばし、「ねぎらい」と「元気」のある会社を目指せば必ず成功していきます。

㈱廣瀬ではこれらのテーマを各週で決め(例えば、ある週は③プラス発想ぐせをつける)、全員でそのテーマに沿った行き方や行動をするように心掛けています。

「”ばかやろう”という“エゴ”と“闘争”の会社は滅び、”ありがとう”という“感謝”と“喜び”の会社は繁栄する。イラク戦争が終わったところから加速をつけて人間も会社もこの二極化が始まる」
㈱廣瀬は廣瀬伸一社長のもと、「エゴ”と“闘争”の道ではなく、「感謝”と“喜び”の道をはっきりと選択して、その栄えある㈱廣瀬50周年を迎えたわけ。それはまさしく、亡き先代がモットーにされていた「素直で正直な商売」の意思をはっきりと全社員が受け継いだということでもあります。

どうぞ㈱廣瀬の皆さんは自信を持って現在の「感謝”と“喜び”の道を歩みつづけ、そして、周りの人たちに常にプラスのエネルギーを与えつづける集団であってほしい。それが先々代そして先代に対して最大の感謝のあらわれであると私は感じております。また本年も「ありがとう研修」で共に人間性と人間力(戦力)を高めていき、先代の意に沿った素晴らしい会社を築き上げていかれることを祈念して、私の祝辞とさせていただきます。

100周年に向けての 新たなスタートへ

大新東㈱ 代表取締役副社長

Yoshikazu Noguchi
野口義和



本日は㈱廣瀬創立50周年をお迎えになり、誠にありがとうございます。

廣瀬社長の友人といたしまして、心からお慶び申し上げます。

私事で恐縮ですが、私共の会社は昨年ちょうど40周年を迎え、大新東グループ7000名の社員が創立40周年を慶びました。

しかし、私共の40年よりさらに10年も長い50年という歳月には、数多くの困難、そして数多くのご苦勞がおりになられたことだろうと存じます。

それを乗り越えられて五十年の長きに亘って会社を維持し、発展させてこられたことは、先々代の社長、先代の社長、そして当代の廣瀬伸一社長に互る並々ならぬご努力の賜物と心から敬服いたします。

また、大所高所から廣瀬伸一社長をサポートなさってこられましたお母様の廣瀬好子専務や廣瀬泰久常務、そして文字通り内助の功を発揮してこられた廣瀬智子マネージャーをはじめとして、社員の皆様方の支えと結束があったればこそこの今日であろうと拝察いたします。

ご関係者ご一同様の今日までのご苦勞に心から敬意を表します。皆様本当にご苦勞様でございました。

さて、㈱廣瀬は、本日の50周年を一つの節目として明日より100周年に向かって新たな挑戦が始まるわけでございます。そこで誠に僭越とは存じますが廣瀬伸一社長の友人として、本日ご参集の皆様へお願いしたいことがございます。

それは、㈱廣瀬に対するご愛顧と、廣瀬伸一社長に対するご指導ご鞭撻を賜りたいということでございます。

もちろん私共、大新東グループも微力ながら日光江戸村、登別伊達時代村、加賀百万石時代村、伊勢安土桃山文化村などでの施設で運営いたしております無農薬野菜や果物の販売をはじめといたしまして、㈱廣瀬の発展のお役に立たせていただこうと存じております。

なぜならば、私も中田先生のもとで共に学ぶ21世紀型経営者の会「凡夫の会」の会員の一人として、廣瀬伸一社長が常に世のため人のためとなる”本物の商い”を求めつづける純粋な姿勢と、うそのない生き方や躍動的な行動力に、とても魅力を感じ取れるからであります。

また諺に「心、ここにあらざれば見えども見えず、聞こえども聞こえず、食えどもその味を知らず」とありますが、廣瀬伸一社長は同じものを見ても、同じものを聞いても、同じ料理を食べても、そこで発見するものが一般的な経営者の視線とは違っており、その感性の鋭さによって、㈱廣瀬の青果業というビジネスを、もっと大きく、また新たなものにできる可能性に満ち満ちた優秀なリーダーだからであります。

最後になりましたが、100周年に向かって新たなスタートを切られました㈱廣瀬の益々のご発展とご参集の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。私の祝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



大人気の「ニャンまげ」に会える日光江戸村

”正義感が強く”て”頑固”で
”ばか正直”で”一本気”で”くそ真面目”
まるで私達は兄弟のようにそっくりです



Yukio Yamada
山田幸雄

ナチュラルクリーン(株) 代表取締役社長

㈱廣瀬創立50周年おめでとうございます。

廣瀬社長との出会いは、月に一度東京で開催される「観明日会」という情報アナリストの鈴木三雄先生の勉強会でした。大きな会場には100名あまりの経営者が集まっていますが、私は彼の福々しい満面の笑顔ときれいな目が特に印象的で、勉強会が終わってからの立食パーティーで早々息投合したことを覚えています。

それからというもの、月に一度はこの東京での勉強会で彼と顔を合わせるのですが、彼と話せば話すほど「実に私と価値観がよく似ているし、この人との出会いはいったいどういう意味があるんだろう…」と何故か運命的な出会いを強く感じていました。

その後、私は鈴木先生が絶大な信頼を寄せている中田先生との出会いがあり、当時新規事業の取り組みに対して迷っていた私は、中田先生の一言「自分で自分を谷底に落とす勇気のある人が最後に勝つ！何もしない人は、失敗もしないかわりに成功も永遠にないもんよ」の言葉で、心底覚悟を決め、中田先生の多大なご指導やご援助、そして鈴木先生のご協力を得ながら、新規事業「ナチュラルクリーン・ウォーター・ウォッシュ・プロジェクト」を実行していきます。

このプロジェクトは、既存のドライクリーニングをすべてやめて、全工場

を特殊な水洗いシステムに変え、従来のクリーニングのイメージから脱却したブランドアイテムやレザーアイテムのアパレル仕上げが可能”ファッション・ケア”としての会社創立を目指すというものでした。

またマーケットは日本中・世界中の各種ブランドアパレルメーカー、そしてブランド顧客をターゲットとするという、今考えてみれば私共のような千葉の中小企業のクリーニング会社にとっては途方もない”前代未聞の大プロジェクト”です。

このプロジェクトを可能にさせるために、3工場の従業員120名、取次店60店舗のオーナーの意識改革、全顧客への納得いく説明、新たな設備投資、新技術開発や新たな技術取得、工場ラインの大幅改革、新たな特許取得、米国でのクリーンショーでのデモンストレーション、資金

繰り等々…、それはそれぞれは大変な作業ではありましたが、一人の経営者としては新たな21世紀に向かって実に「理想」と「夢」と「大きな希望」のあることでした。

そして意を決してのプロジェクトスタート。しかしそれとともに、予想通り大嵐の中を進む船のように当社は揺れに揺れていきます。「会社の方針には従えない」と幹部や従業員が去っていったり、水洗いに慣れないためのクレームによる売上の落ち込みがあったり、資金繰りが悪化したりと、さすがの私も夜眠れない日々が続くことがありました。そういった逆境の中でいつも「心配するな、なんとかする」と私達の大きな柱となって道をどんどん切り開いてくださったのが中田先生であり、私達を「身銭を切った資金援助」までして支え続けてくれたのが廣瀬社長や「凡夫の会



2001年、自然との調和を表現して造られた
千葉県君津市 ナチュラルクリーン・ブランドファクトリー



男性ファッションの”バイブル”であるメンズ・クラブの別冊「DORSO」に掲載されたナチュラルクリーンのファッション・ケア技術。(2003年5月20日発売)



全国の一流ブランドショップに
配布されているリーフレット



月に一度発行の
ニュースレター
「ワイ・ワイ通信」



社内コミュニティー誌
「チャレンジャー通信」

「スーツを水で洗って新品のように甦った。今までの常識では考えられない」とスーツのプロたちが驚いた。

の経営者の皆さんでした。

また「ドライ」から「水洗い」に変わった当初、正義感の強い廣瀬社長は「僕で出来ることがあればなんでも手伝うから。世のため、人のために生きると山田さんが成功せんでどうするんや。これからはバツモンじゃなくて本物が世の中に出て行かんとかあんのや!!」と暇を見つけてはご夫婦で千葉に駆けつけてくれ、当社の社員と共に、君津市や木更津市内を一日中ポスティングをして東奔西走してくれ、革靴を履きつぶしてくれたこともありました。そして、共に夜釣りに行っては色んな本音を語り合いながら、また酒を酌み交わしな

がら、私と彼との間には強く深い絆が生まれていきました。

私も彼も”正義感が強く”て、”頑固”で”ばか正直”で”一本気”で”くそ真面目”。そんな不器用な性格から、周りの人や社員とはよくぶつかりました。しかし、私も彼も今では大きく変わりました。様々な経験をしていく中で多くのことを学び、人間としての自我が一度も二度もむけて、変なプライドも捨てていかされました。

私の会社もそうですが、社長「廣瀬伸一」が変われば変わった分だけ会社も「調和と進歩のバランス」が取れた方向へ変わっていくことでしょう。㈱廣瀬は現在、外部から客観的に

見ても、とても良い方向に流れていることが実によくわかります。

そして、ありがたいかな、現在当社は「ナチュラルクリーン・ウォーター・ウォッシュ・プロジェクト」のお陰で、売れない時代に売れる会社に育てられ、社員一人ひとりも”生きがい”と”喜び”と”チャレンジ精神”を持って情熱的に仕事に取り組んでくれる会社に生まれ変わりつつあります。また、㈱廣瀬も業種の違いこそあれ、共に同じ道を歩みつつつけてくれていることに心より喜びを感じます。

最後になりましたが、㈱廣瀬の益々のご繁栄を祈念して友人の祝辞とさせていただきます。

元気でタフなスタッフたち Members of HIROSE

（株）廣瀬創立50周年を迎えて――

部長 竹内一彦

Kazuhiro Takeuchi

自分を磨き、会社を愛し、
廣瀬をもっと良くしていきたい



（株）廣瀬創立50周年おめでとうございます。

私が（株）廣瀬に入社したのは今から15年前、ちょうど20歳の時でした。それまでは中華料理のシェフとして働いていましたが、幼なじみで縁の深い廣瀬社長や専務の強い要望を受けシェフになることをあきらめて、社員として頑張っていく道を私は選択しました。

その当時はまだ従業員の数も少なく（確か7人位だったと思う）毎日とにかくがむしゃらに働いていた気がします。その後、何年かして市内産の近郊野菜の仕入れをやらせてもらうことになりました。

市内産のセリの場合、黒板に値段を書いて見せるセリなので結構早く慣れましたが、その後専務がやっていた重量野菜（キャベツ、白菜、大根）の仕入れをまかされるようになり、「自分にできるかな？」と不安になっていましたが、社長の「損をしてもいいから、お前の思ったように好きにやってみい」の言葉に勇気づけられ、重量野菜の仕入れがスタートしました。

当時を振り返ると、最初のころはよくセリ人に「その手なんぼやわからへん」と言われたりして恥をかくこともありましたが、だんだんと慣れると共に自信もついていきました。そして今、担当品目も沢山増えて楽しみや苦しみの両方を

味わいながら、やりがいのある仕事を自由にやらせていただいています。

ただがむしゃらに働いているような私や職場でしたが、数年前、社長と中田先生との出会いがあり、中田先生のプレーンであり経営指導を受けている鈴木会計事務所所長の鈴木先生、世界で初めて高度な衣類・レザーの水洗いを成功させ各種のブランドから圧倒的な支持を受けている（株）ナチュラルクリーンの山田社長や奥様の山田専務といったとても素晴らしい人達との出会いや、ご指導によって本当に（株）廣瀬はプラスの方向に年々大きく変化していきました。

1年前から会社に取り組んでいる「ありがとう研修」のお陰で、社員全員“威張る”“怒鳴る”“怒る”の「い、ど、お」の発言が少なくなり、逆に“嬉しい”“楽しい”“幸せ”“う、た、し”の発言が多くなっていきました。

また“猿六つのポイント”を一つずつ週のテーマにした社員全員の「ジッセンジャー日報」の提出で、社内のコミュニケーションや問題解決が凄く深まりました。本部から日々発行している社内コミュニティ誌「ジッセンジャー通信」によって（株）廣瀬は社長の持つビジョンが共有化、そして一体化されていきました。

また社外に対して不定期に発行する（株）廣瀬ニューズレター「お・やおや通信」など、以前にはまったく考えられなかった事が、中田先生とのお縁によって今ではまったく当たり前になっていきました。

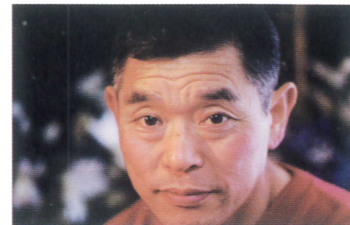
本当に今、素晴らしい仲間であるスタッフや素晴らしいご縁に囲まれ嬉しく思います。そしてもっとも私一人ひとりが自分を磨き、（株）廣瀬という会社を愛し、その一員としてプライドを持つことによって、（株）廣瀬をよりもっと良い会社にしていきたいと強く思っています。

今後とも多くの皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

主任 秋山恭徳

Yasunori Akiyama

“嬉しい”“楽しい”“幸せ”な
職場づくりをめざして



（株）廣瀬創業50周年おめでとうございます。

今の私が（株）廣瀬の一員として50周年を向かえる事に喜びを感じずにはおれません。この会社に縁あって入社して5年半になりますが、会社も私が入社した当時よりは随分良い方向へ変わったと思います。

月1～2回の研修会で、中田先生や鈴木先生に出合っただけで私たちが成長できるお話を一杯聞くことができたり、各部門ごとのテーマを決めて社員同士が真剣に話し合ったり、会社全体で研修を継続することによって、自分自身が磨かれ、もっとも素晴らしい会社に育っていければよいと思っています。

去年は鈴木先生のご紹介によって長野の方に二回も足を運び、マサチューセッツ工科大学教授である花岡先生の「安全、安心な自然農法」に出合っただけでびっくりしました。その農法によって作られ、静岡から送られてきた「縄文みかん」などは、見た目は悪くてもとても味の良い商品でした。今年も良い商品に出合えることを楽しみにしておりますが、こんなことは以前の（株）廣瀬では考えられなかったことです。

昨年9月より（株）廣瀬は一人ひとりの社員が「嬉しい」「楽しい」「幸せ」な職場づくりを目指して新生廣瀬として出発し、どんどん素晴らしい“ビジョン”に向かっ

て変化していると思います。

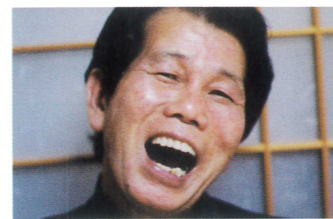
今後も研修会などの学習の場で自分の意識を高めていくとともに、いろんな人との出会いを大切にしていっても「ありがとう」「感謝」の気持ちを忘れないように、私も会社も一歩一歩前進していくつもりです。

今後とも宜しくお願い致します。

太田末信

Suenobu Ota

ご恩がある（株）廣瀬に
一生懸命勤めさせて
いただきます



（株）廣瀬創立50周年おめでとうございます。

私は（株）廣瀬にお世話になって9年近くなりました。ほんとうにありがとうございます。

私はこの年になるまでに大きな災害に二回遭いました。一つは戦争、もう一つはこの間の阪神大地震と、死ぬか生きるかの目に二回も会い、とても大変でした。

地震の後は、着の身着のままの姿になり、裸一貫からがむしゃらに働く以外にない状態でした。私は最初の頃は、午後4時～翌朝の4時まで焼肉屋さんの店員で働き、朝5時から（株）廣瀬に入って朝11時まではアルバイトでただひたすら働くということを繰り返していました。

とにかくお客様に対する接客、またお客様に好かれる店員になる、また主

人様に好まれる人材になることを目指して努力し続けました。

そのうち奥さん（専務）から、「太田さん、廣瀬の社員になったら。うちの店一つにしたら。このままでは体がもたんよ」と声をかけられました。その時の嬉しさは今も忘れません。奥さんにはよくしていただき、可愛がっていただきました。私は「よし」と思い、（株）廣瀬で骨を埋めるつもりでやろうと決心しました。

（株）廣瀬での最初は、今までやったことのないゴボウの仕事から入り、手でゴボウの土をゴシゴシと水で洗いながら落としていたのですが、とにかく大変な作業でした。しばらくして、洗い用の機械が入った時は嬉しかったです。当時のことを振り返ると、毎日がとても楽しかったことを思い出します。

そして私は車に乗れないものですから、お店の加工専門の仕事に取り組みようになっていきました。とにかく（株）廣瀬の顧客の客層の理解をより一層高めることを心掛けてやってきました。

そんな時、お店の裏で、ある事故に遭いました。お腹を打ち、小腸が破れ、救急車で運ばれ、死ぬか生きるかの瀬戸際でした。しかし、そのお陰で長い間遠ざかっていた娘も私のもとを訪ねてくれ、毎日夜まで私につきそって看病してくれました。私は娘の献身的な姿を見ながら心の中では毎日泣いていました。そして、肉親、子どもって本当にいいものだと思えました。また「夫婦、子どもとは仲良くやっていかなければならない」と、やっこの年になってつくづく感じさせられたことです。

私は（株）廣瀬では長老で、今から何年お世話になるかわかりません。しかし、いろんなご恩がある（株）廣瀬に一生懸命勤めさせていただきます。

どうか末長くよろしくお願いたします。

開発久男

Hisao Kaihatsu

今後も（株）廣瀬は
常に前に向かって
変化・進歩していきます



私が（株）廣瀬で社員として働かせていただいていた1年7カ月になります。それまでは自分で商売をしていましたが、妻が足を悪くして思い切って商売を辞め（株）廣瀬に入りました。

自分で商売をしている時は平々凡々と日々を過ごしていましたが、（株）廣瀬は常に変化していますのでそんな生活は一変し、私自身も人間的に日々成長していくのがよくわかります。

特に一年前からの「ありがとう研修会」が始まってからは、取引会社や商店、家族、商品、そしていろんな物に「ありがとう」の感謝の言葉を社員全員が言えるようになっていきました。

また問題解決のために自主的に社員同士が話し合ったり、一日の売上と目標達成率がボードに書かれチームが一丸となって協力し合ったりと、今までにはなかったことが次々に起こっていき、今後も（株）廣瀬は常に前に向かって変化・進歩していくと思っています。

専務に夏は冷たい飲み物や、美味しいお総菜をいただいたりと、「あたたかい会社やね、本当にありがたいね」と家族で感謝しており、（株）廣瀬に縁があったことを心から喜んでおります。

（株）廣瀬創立50周年、本当におめでとうございます。

原口忠士

Tadashi Haraguchi

60周年・70周年も
みんなと迎えられるように
頑張っています



私は㈱廣瀬に入ってまだ一年にも満たないのですが、偶然か、はたまた運命だったのか、創業50周年記念という大きな節目の時期に社員でいられることができました。

前の会社を辞め、㈱廣瀬の面接を受けた時に社長とお話の中に、新しいプロジェクトとして花岡農法の自然野菜への取り組みがあり、心の中で「この会社は他の会社とは違うな」と感じました。

その後㈱廣瀬に入って働き、市場の雰囲気にもビックリ、みんなが凄く頑張っているのに驚かされました。働きだしてからは今までお腹にあった贅肉が無くなり、働いてお金も戴きながらダイエットが出来、一石二鳥という感じでした。

最初のうちは、仕事を覚えるのが精一杯で何がなんだか分からずに一日が経ち、お客さんも目に入らない状態でしたが、少し馴れてきた時にお客さんに「がんばりや〜」と声を掛けてもらい凄く嬉しかったです。お客さんも優しい人ばかりだったのが、今もここで働いている一因だと確信をもって言えます。

昨年10月に社長が面接の時に語っておられた、花岡農法で栽培して採れたトウモロコシを食べさせてもらったのですが、それは生で食べても甘くて美味しく、これが本物の野菜の味だと初めて知りました。

またそれから花岡農法のリンゴの採

取にみんなで行きました。一切農薬を使っていない為に、リンゴは隣にあった農薬を使用している木になっているリンゴよりも虫に食べられている物が多かったのですが、食べてみると蜜が多く、とても美味しく、社長がなぜ花岡農法に興味を持たれているのかがよく理解でき、㈱廣瀬の流通が今後どういう方向に進もうとしているのかが分かりました。

今年に入ってから、「研修を受けて学習したり、日々の日報を書く必要はない」と、会社の方向性に賛同できないアレンジメントスタッフの大多数の方が職場を去りましたが、全員が協力し合って人手不足を乗り越え、それがきっかけとなってチームワークも固まり、会社の方向性に共感できる人たちが次々と入社し、今までよりも随分良い雰囲気職場になったように思います。

さらに三月には前年度比50パーセントアップの目標を達成することができ、みんなで力を合わせて一つの目標に向かっていくと何事も出来る事が証明できました。

㈱廣瀬50周年の今、世界情勢も不安定で安心して暮らすことが出来ない世の中ですが、会社の為、そして自分の為にも60周年・70周年をみんなと迎えられるように、これからも頑張っています。

田上勝彦

Katsuhiko Tagami

“ありがたい”という
感謝の気持ちで第2ステージへ



㈱廣瀬の50周年誠におめでとうございます。

私は入社してまだ5カ月ですが、この㈱廣瀬の歴史の中で記念すべき喜びの50周年を迎えることができます。

世間では不景気、倒産、失業、株安、詐欺、戦争…といった暗いニュースが実に多い中で、そういった状況とは全く関係なく、常に進歩を遂げ、さらに第2ステージへと飛躍しようとしている㈱廣瀬の中に自分がいて、そんな㈱廣瀬の仲間と喜びと行動を共に出来ることは実にありがたく、感謝で一杯です。

先ほども申しましたが、㈱廣瀬と私の出会いはわずか5カ月前にありました。しかし、私にはなにか大きな“縁”を感じさせる出会い(自分ではそう感じてます)に思えてなりません。

私は23年間働いた以前の会社がこの不景気で半ば倒産し、いわゆる失業者になりました。そして初めての職探しの面接が、㈱廣瀬でした。「年齢45歳位まで」が条件、私は51歳。年齢オーバーにもかかわらず、社長が直接面接に応じて下さいました。

その面接では社長が㈱廣瀬の広報紙「お・やおや通信」を私に見せながら、会社全体で「ありがとう」の言葉や「トイレ掃除」の実践をやっていることとお話され、社長は私に「あなたはこのようなことが喜んで出来ますか？」と聞かれたので、私は「はい、出来ます」と喜んで即答しました。

なぜなら、“ありがとう”や“トイレ掃除”の感謝行の実践や、“自然農法との出会いや未来の農業の姿”などの前向きで希望あるお話を目を耀かせて熱く語られるこの若い社長の前向きで純粋な雰囲気、私は“ピン”とくるものがあり、社長の希望と夢のある大きなビジョンに私自身が心底“共感”と“感動”を覚えることができたから即答できたのです。

後で聞けば100人以上の人が面接に来られたそうですが、私の場合は即その場で「採用」が決まり、その後仕事

を始めてからもまるで「㈱廣瀬で一生懸命働きや」とでもいうかのように、とにかくツイてることが何回もあり、「私は㈱廣瀬に入るべくして入ったのだ」と確信しています。

㈱廣瀬には、廣瀬伸一社長という良きリーダーが存在しています。この若い社長は50年の歴史に胡座をかくのではなく、現状打破をいつも目指しています。そして21世紀の会社の在り方を真剣に考えているリーダーです。またお客様も、会社スタッフもワクワクと楽しめ、喜べるような商い、そしてなにより従業員の一人ひとりを心から“ねぎらってくれる”素晴らしいリーダーです。

人はその人の存在を無条件で認められ、心からねぎらわれるとき、「ありがたい」という感謝の気持ちや、「よし頑張るぞ」というやる気の気持ちが沸々と湧き出してくるものです。そんな気持ちを常に持って一人ひとりの従業員を大切に扱ってくれる素晴らしいリーダーのもとで働いていることに、私を含め従業員全員感謝すると共に心から喜んでいきます。

㈱廣瀬では昨年より第2ステージへの飛躍を目指して色々な取り組みを実践していますが、この数カ月の間にチームの雰囲気は随分変わりました。それは「感謝」と「一人ひとりの尊重」、そして何よりも一人ひとりの意識や思考が前向きに変わったことです。だからとてもいい雰囲気だと思いますし、着実に第2ステージでの躍動を迎えつつあります。

何度も申しますが、私は㈱廣瀬に入ってあっという間に5カ月過ぎました。今私は素晴らしい仲間とリーダーに出会えた“ありがたい”という感謝の気持ちで、第2ステージへ到着していく期待と要求に対して具体的に伝えていき、㈱廣瀬の限らない進歩の流れの中で貢献できるよう、また仲間と共に喜べるよう更に頑張っていきたいと心から思っています。

谷川元氣

Motoki Tanigawa

㈱廣瀬に入ってからの
一年間で、内容の濃い、
いい体験ができました



僕は㈱廣瀬に入って約一年間が経ちます。最初はGさんにいろいろトラックの荷物の積み方や、お客さんの車を教えてもらったりして仕事を教えてもらいました。しかし㈱廣瀬は常に現状に甘えずいつも進化していくので、変化していけないGさんはAさんと一緒に9月25日に退社してしまいました。

2人の退社当時は人数が足りなくて、毎日毎日メチャクチャ忙しい日が続いていましたが、途中から原口さんと田上さんも入社してきて仕事は安定していきました。

会社が安定してきたと思ったら、やはり会社の前向きな変化を恐れる抵抗勢力であったアレンジメントスタッフの人たちが、中澤さんを除いて全員が一斉に辞め、その穴を埋めるために僕も一日、目一杯仕事をする事になりました。

振り返ってみれば色々なことがありましたが、㈱廣瀬に入ってからの一年間で中学校三年間と同じぐらいの内容の濃い経験が出来たと思っています。

今後も常に前向きに進化し続ける㈱廣瀬の一員として頑張っていこうと思っています。

最後になりましたが、㈱廣瀬創立50周年おめでとうございます。



Mayumi Yamane
山根真弓

“信頼”“共感”“ねぎらい”
の輪が自然に広まる



（株）廣瀬の創立50周年、誠にありがとうございます。

昭和28年創立は私の生まれる10年も前になります。顔も名前も知らない先代が、どのような思いでこの尼崎の中央市場で開業されたのでしょうか。そして沢山の方々がどのような思いでこの（株）廣瀬を営んできたのでしょうか。

そんな事を考えると、今改めて自分はどのような思いを持って、この（株）廣瀬に勤めていかなければならないのかを深く考えさせられます。

私は去年の10月9日にこの（株）廣瀬に入社致しました。面接に伺った時には、事務所に飾られた「感謝」の書体が凄く印象に残り、「とても心ある会社だな」と思いました。

でも頑固な私は研修での中田先生のお話や、日々の社長のお話を素直に聞くことが出来ずに随分苦しみました。

「心に感謝の気持ちが湧いてこなくても、ありがとう、ありがとうと、ありがとうとお題目のように繰り返してありがとうを言っていたら、心も体も自然にプラスになっていく。ウソやと思ってもいいから、やってみんさい。プラスの人生が勝手に開けてくるから」という研修での中田先生の言葉に、半信半疑で毎朝「ありがとう」を

言いながら自宅から通勤していました。

ある日とても落ち込んでいて、いつものように「ありがとう」を言い続けて自転車をこいでいると、会社に着いた時には“すっ”と気持ちが晴れ、嘘のように前向きになれた時がありました。その時「ありがとう」という言葉の素晴らしさを、理屈ではなく心で感じ取れ、それ以来社長の言われる事等、とても素直に前向きに聞く事ができるようになりました。それを機に、私は（株）廣瀬で働けることを心から感謝できるようになっていきました。

（株）廣瀬はこの50年間、いろいろな素晴らしい英知や経験を活かし、また豊かな心を持った方々とのご縁の中を歩んできたのだと思います。そして素晴らしいお客様との出会いも数多くあったのだと思います。

ただ私はこの（株）廣瀬という職場に勤めていてとても感じるがあります。それは、過去の尊い歴史を受け継いだ土壌をさらに社長は進化させ、「信頼」と「共感」と「ねぎらい」の持てる場に一生懸命育ていらっしやることです。

従業員全員がそんな社長のことを信頼し、社長の持つビジョンを共有し、心から社長についていこうとしています。また同じように、全スタッフを社長が深く信頼して下さっている事が感じ取れるこの（株）廣瀬という職場は、本当に素晴らしい会社だと思えます。そしてこのような「信頼」と「共感」という輪は、自然に大きく広がっていくのだと思います。

改めてこのようなことを綴りながら、（株）廣瀬の素晴らしい歩みの中に自分があることを、そして（株）廣瀬の一員であることを、心より誇りに思っております。

Kazumi Yoshida
吉田和美

素晴らしい素材
”野菜”にかかわる
活気にあふれた（株）廣瀬



（株）廣瀬の創立50周年おめでとうございます。

この記念すべき年に（株）廣瀬で働かせていただいている事に感謝すると共に、素晴らしい式典に参加させていただける事を大変光栄なことだと思っております。

（株）廣瀬は青果業ですが、考えてみれば、肉や魚料理、その他色々な料理を食べる時でも、必ず野菜は食べます。時にはスープのダシを取るときにも使われています。

煮てもよし。
焼いてもよし。
生のままでもよし。
加えて季節ごとに「旬」の物があり、見た目だけではなく「香り」や「味」など、素晴らしい素材を兼ね備えた食べ物だと思えます。

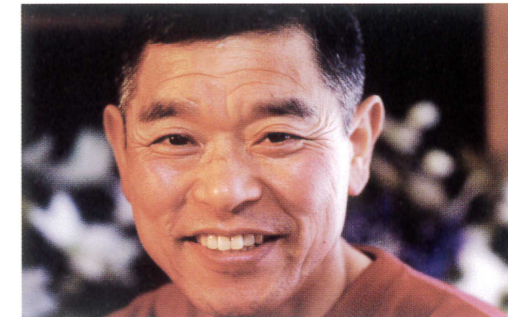
その食べ物の流通にかかわって仕事ができる（株）廣瀬はとっても活気にあふれた会社だと思えます。

このせちがらい世の中の逆風にも負けず、益々売上を伸ばして発展する（株）廣瀬で微力ながらお役に立てる仕事ができる様、精一杯頑張りますのでこれからも宜しくお願い致します。

笑顔満開



本当はお茶目な社長



（株）廣瀬の発明王！秋山さん



表情がグンと明るくなった
アレンジメントスタッフ東さん



上背はなくても、（株）廣瀬一の筋肉男は太田さん



みんなのお兄ちゃん竹内さんは
オールラウンドプレーヤー

（株）廣瀬では、想いや理念・トピックスを掲載した「お・やおや通信」(不定期発行)を発行しています。また、日々スタッフが感じたことや気づいたことを日報にした社内日報「ジッセンジャー通信」を発行し、「人財育成」を行っております。



アトラクションの練習で張り切った吉田さん

アレンジメントスタッフ

私たちも、“いのちの花”を咲かせています

Etsuko Nakazawa
中澤悦子



新スタートに向けて、“楽しく”“明るい”職場作りを心掛けていきます

私が(株)廣瀬に入った時は、7名のアレンジメントスタッフがいらっしや、その人たちに仕事を教えてもらっていたのですが、「会社の方針は自分たちには合わない」と急に7名全員が辞められ、結局私一人だけになってしまいました。

何が何だか分からないまま社長、常務、社員の皆さんに支えられ励まされ仕事をしているうちに、会社の為に少しでも努力して良い結果を出そうという気持ちが強くなり、今日まで頑張ってきました。

また新しく入った人たちを教える時は、心くばりを忘れず、また、「ありがとう」という感謝の言葉を出して、いつも初心に帰り接してきました。

現在では、9名のアレンジメントスタッフが勢揃いしています。(株)廣瀬創立50周年での新スタートに向けて、9名全員“楽しく”“明るい職場づくり”をいつも心掛け、今以上の創意工夫と努力を重ねて、会社へ貢献していきます。

(株)廣瀬創立50周年おめでとうございます。

Yumiko Saito
斎藤弓子



少しずつ先輩としての責任と自覚が増してきました

私は(株)廣瀬に入ってから2か月以上になります。最初の頃は3人で座って作業をしていましたが、座っている間は腰が痛くなったり生産性が悪いと思いましたので、皆で立って作業をする事を決め実行していくと、腰もあまり痛くならなくなったので良かったと思いました。

そんな私も2月の終わりには新しい人たちがどんどん入ってこられたので、少しずつ先輩としての責任と自覚が増してきました。

今度の(株)廣瀬創立50周年祝宴では私たちスタッフ全員でお客様をお迎えし接待をすると聞きましたので、なるべく失礼のないように(株)廣瀬の一員として頑張りたいと思います。

初めての事で少し緊張していますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(株)廣瀬50周年おめでとうございます。

Naoko Azuma
東直子



研修会や日報等、すべてが自分自身にプラスになる

入社して早一カ月が過ぎ、月に一度の研修会にも参加させて頂き、(株)廣瀬の方針も少しずつ理解出来た様に思います。

私は家で介護度4ではぼ寝たきりの父を見ていたのですが、入院したため、縁あって(株)廣瀬で働くことができ、本当に感謝しております。

以前とは違い、一日が仕事と病院通いで忙しい為に、色んなことをよくよく考えこまない様になりました。

研修会や日報等で、今まで眠っていた頭を起こし、すべてが自分自身にプラスになる事と納得して、頑張ったり、そんな自分を励ましたりする毎日です。

時の過ぎるのは非常に早く感じられます。しっかり足を地に着け、一日一日を大切に、無事一日が終われば感謝する気持ちを忘れないで生きていきたいです。

(株)廣瀬創立50周年おめでとうございます。

Yoshiko Tanaka
田中美子



常に消費者の目で見よう！を目標に!!

私と(株)廣瀬の出会いのはじめて行ったハローワークです。4年ぶりの仕事とあって、仕事があるのか？採用されるのか？と不安の中、初めての問い合わせ先が(株)廣瀬でした。

仕事にも慣れてきた中で、アレンジメントの仕事は単なる作業過程のひとつではなく、会社にとって、また納入先のお店にとっても大切な仕事だと感じています。

ジャガイモ、ニンジンの袋詰めをしながら

傷物の野菜の選別をしています。もし傷物が商品にまじり販売されたら、販売店、(株)廣瀬、そしてアレンジメントスタッフの評判が悪くなり売上にも影響が出てきます。販売店、廣瀬、そしてアレンジメントスタッフに迷惑をかけないようベストを尽くします。

常に消費者の目で見よう！を目標に!!

(株)廣瀬創立50周年おめでとうございます。

Emi Osaki
大崎恵美



自分のためにも会社のためにも仕事を楽しみながら頑張っていきたい

私は(株)廣瀬に入ってから二カ月が経ちました。とにかく(株)廣瀬のスタッフの皆さんはみんなすごくいい人ばかりで、とても働きやすいと思います。

私が(株)廣瀬に入った時はまだアレンジメントスタッフが2人だけでしたが、今では9人に増え、みんな仲良く楽しく仕事が出来て本当に良かったです。

これからも自分のためにも、会社のためにも仕事を楽しみながら頑張っていきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。

(株)廣瀬50周年の大切な時に、私もこの会社の一員としてその記念すべき日を迎えられるなんて本当にうれしいです。(株)廣瀬創立50周年本当におめでとうございます。

Mariko Uemura
植村真理子



日々の仕事はとても楽しく、職場は私に安らぎを与えてくれます

私はこの(株)廣瀬に面接で訪れ、社長のお話をうかがった時から、他の会社とは何か違うものを感じ、この(株)廣瀬の商売に対してとても新鮮でワクワクした思いが湧き出していました。これは、私が今まで学んだ仕事からの経験や、テレビっ子の影響からか“商いの理想とは”を、自分なりに感じ取り、この(株)廣瀬という会社の方針が私にとってとても

心地良いと感じていたので。この(株)廣瀬では“仕事”と“趣味”を兼ね備えて生きがいのある人生を送ることができます。日々の仕事はとても楽しく、職場は私に安らぎを与えてくれます。だからこそ、いつも責任感とほのかな緊張感を持って仕事を一杯頑張っていきたいです。

(株)廣瀬創立50周年おめでとうございます。

Hiromi Kanaya
金谷宏美



笑いの絶えない明るい職場で充実した生活を送っています

(株)廣瀬に入社した時、今まで経験したことのない職種で戸惑いや不安で一杯でしたが、スタッフの皆さんがとても“明るく”“前向き”に仕事をされている姿を見て、「私にもできる!」と自信を持たせてもらいました。

先輩方には子育てについて色々な相談にのって頂き勇気をもらい、若い子には沢

山の元気をもらい、毎日笑いの絶えない明るい職場で充実した生活を送って、(株)廣瀬に入社できた事を本当に感謝しています。

今まで沢山の皆さんが築き上げられてきた(株)廣瀬の50周年に参加でき光栄に思います。(株)廣瀬50周年心よりおよろこび申し上げます。

Yoshiko Wakugawa
湧川良子



心地よい緊張感の中で何事も前向きに取り組む

(株)廣瀬50周年おめでとうございます。私は10年間専業主婦からの社会復帰一週間目です。社長は面接の時に、「日々の日報を書くことや、月に一度行われる研修会などで従業員同士の人間性と人間力を高め、それが会社全体のレベルアップと発展につながる」とおっしゃいました。私は頭では理解できるものの内心は、「理想と現実にはギャップがある。実際のところはどうか…」と思う気持ちもありました。

しかし一週間経った今、(株)廣瀬の皆さんとお仕事を一緒にさせて頂き感じた事は、スタッフ同士の仲がとても良く、心地よい緊張感の中で何事にも前向きに取り組む姿勢はとても良い雰囲気、社長のおっしゃっていた意味がよく分かりました。私も早く(株)廣瀬の一人前のスタッフとして成長しなければと思っています。

今後の(株)廣瀬の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

Sayaka Ishihara
石原沙也香



もっともっと(株)廣瀬が大きくなるように皆で頑張っていきたいです

私は、4月15日に廣瀬に入りました。マネージャーから(株)廣瀬が50周年を迎えた事を聞いて、私のお父さんと同じ年なんだと思いました。

そう考えると、「すごいなー」と思うし、同時に「これからなんだなあ」とも思います。

もっともっと廣瀬が大きくなるように、皆で頑張っていきたいです。私もベストを尽くします。

創立50周年本当におめでとうございます。

株式会社廣瀬50周年記念誌 発刊によせて



Satoko Hirose
マネージャー 廣瀬智子

まずは株廣瀬創立50周年という本日の記念すべき日を迎えることができました事、多くの皆様のご協力ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

さてこの式典を準備する日々は、私にとって改めてこの50年の重みと、現在に至るまでいかに多くの方々に支えられ、育てて頂いたかを痛感させていただき毎日でした。

50年を振り返った時、名も無き小さな商店が成長していく歩みの中には、時には悔しさに涙し、衝突し合ったり、挫折を経験したりと様々な泣き笑いのドラマがありました。そして一つひとつのドラマの山場には、必ず多くの方々の素晴らしい“ご縁”がありまし



た。その“ご縁”という“追い風”でここまで進んでくることが出来た

と過去を振り返れば感謝の思いで一杯です。

今株廣瀬は廣瀬家という“私的な会社”から、社長というリーダーを先頭にスタッフ全員で創造していく“公的な会社”へと大きく変わりました。

それはまさに次のステージへの進化を物語っており、そのステージの上ではそれぞれスタッフ一人ひとりの独自固有の特性を発揮しながらも、燃えるチームが常に一丸となって次なる目標にチャレンジしていく“ねぎらい”と“元気”のある会社です。

一年前から中田先生や鈴木先生のご指導を受け、会社は確実に変化していきました。そしてその変化のキーワードは「社長のビジョンを全員で共感共有する」「何をやるのかではなく、なぜやるのかを徹底的に全員で認識する」「人は期待した通りの人間になっていく」「信頼と共感の土壌をつくる」「“ねぎらい”のある職場は一人ひとりのモチベーションが高まり自然と発展していく」などです。そして株廣瀬50創立周年を迎える今、確実に株廣瀬は次なるステージであった“ねぎらい”と“元気”のある会社へ移行しました。

この喜びのステージの上で、一

人ひとりが自分の役を精一杯演じ、多くの喜びを生み、多くの喜びを周りに伝えていくことが、今までお世話になった方々への“ご恩に報いる”ことだと私たちは感じております。

私たちは今、この50年間の素晴らしい歩みへの深い感謝の気持ちと、次なるステージでの躍進に熱く楽しく燃えています。また皆様とのご縁を大切に、より一層精進してまいりますので、今後ともなお一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、限られた時間の中で全力で記念誌の作成をして頂きました私たちの仲間でもある(有)スタジオ・オアシスの長谷川ご夫婦様本当にありがとうございました。

そして私たち株廣瀬を常に応援、ご指導頂いている中田先生。いつも良きアドバイスを頂くナチュラルクリーン株の山田専務。ご多忙中にもかかわらずいつも研修のために東京より駆けつけて下さる鈴木会計事務所の鈴木先生。陰ながら支えて下さる21世紀型経営の会「凡夫の会」の皆様にはこの場をお借りして心から御礼申し上げますと共に、これからも何卒宜しくお願い申し上げます。



表紙および裏表紙の絵は廣瀬伸一社長・智子マネージャーの長男伸幸くんが、この記念誌のために描いてくれました。



HIROSE 50th Anniversary Memorial Book

株式会社廣瀬 創立50周年記念誌

発行 2003年6月25日

株式会社 廣瀬

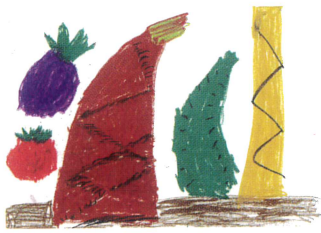
〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江4-4-1

TEL 06-6420-2222(代表) FAX 06-6429-0033

http://www10.ocn.ne.jp/~oyaoya

e-mail : oyaoya@juno.ocn.ne.jp

私たちは私たちの理想を目指して常に走り続けます



燃えるチャレンジャー集団
株式会社 廣瀬
お・や・お・や・は・う・す